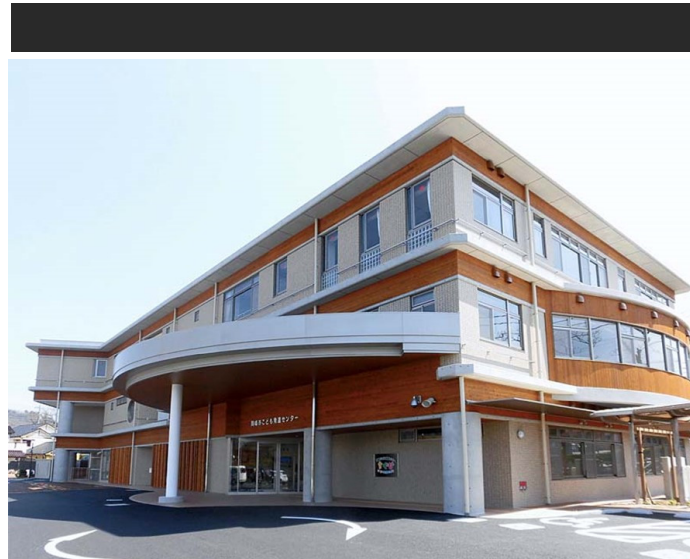




福祉の村のランドマークとなる西の顔として、道路から視認性の高い位置に建てられている。木目を生かしたあたたかみのあるデザインの外観。



1Fは1-2歳児の親子での利用、2Fは3-5歳児の子ども単独での利用、3Fは相談・医療センターと、階ごとに利用者層が分かれている。



施設内は、壁面にかわいらしいイラストが描かれ、床、天井には木を使用し、あたたかい雰囲気となっている。



2つの療育室の間にトイレが設置され、廊下からと、各療育室の中からも出入りできるようになっている。



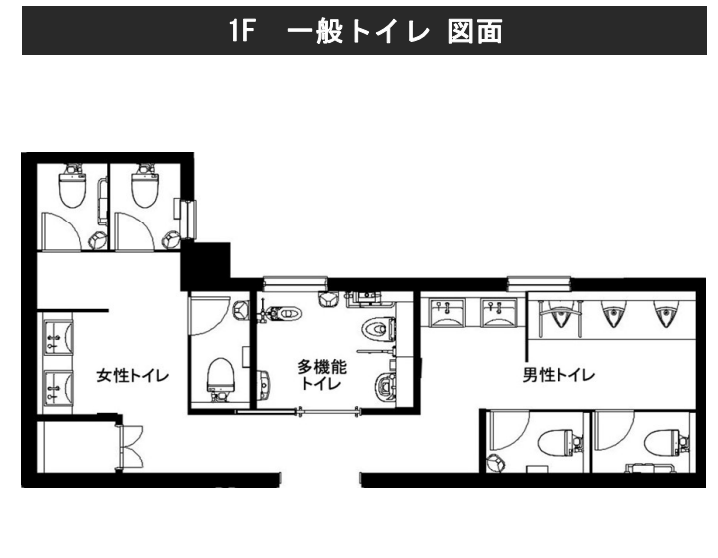
おむつ替えもできるよう、おむつ替えシートも完備。隣には、保育士が使用できるよう、手洗器を設置。



保育士が利用する汚物流し、マルチシンク、シャワーパンは別途扉を設け、子どもが自由に入ってしまうよう管理している。



保育士が利用できるよう、子ども用トイレの中に大便器ブースを設置。手洗器を設置し、個室完結型となっている。



壁の一面には、花柄の壁紙が貼られ、楽しい雰囲気をかもし出している。1Fのトイレは主に1-2歳児が利用。



幼児用大便器には、着脱衣時や使用中の姿勢を保持するため、ぞう形の手すりを設置。小便器はグリップ付きタイプを、足元には尿の飛散によるにおいや汚れを抑制するハイドロセラ・フロアキッズを設置。



多機能トイレは、設置している器具がわかるよう、扉にサインで示している。



多機能トイレは親子で入室できるよう、大人用便器に加え、幼児用大便器やベビーチェアを設置。またオストメイトにも配慮し、オストメイト対応トイレパックも完備している。



1F 一般トイレ 男性トイレ



ナチュラルな木目の明るいトイレ空間。小便器の足元には尿の飛散によるにおいや汚れを軽減する、ハイドロセラ・フロアを設置。

1F 一般トイレ 女性トイレ



男性トイレと、壁紙の色を変えている。大便器ブースには、車いすの接触による損傷に配慮、キックガードを設置。

1F 授乳室



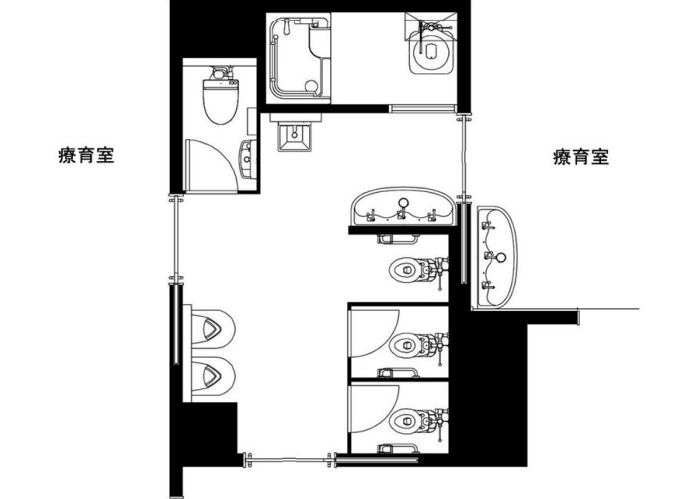
トイレの手前に設けられた授乳室。おむつ替えシートと、個室タイプの授乳室を完備。

1F 一般開放型遊戯室 トイレ



遊戯室の一角に設けられた多機能トイレ。一般開放をするため、車いす使用者や小さな子ども連れなど、さまざまな使用者に配慮し、幼児用大便器や、ベビーチェア、ベビーシートを設置している。

2F 療育用トイレ 図面



1階の療育用トイレ同様、廊下からと、各療育室の中からも出入りできるようになっている。

2F 療育用トイレ 全体



2Fは3-5歳児が利用するフロア。

2F 療育用トイレ



大便器は、サポートのしやすいオープンタイプと、プライバシーに配慮したブースで囲ったタイプの2タイプを完備。子どもの身体状況によって選んで使用できるようにになっている。

2F 水あそび場横トイレ



水あそび場横にもトイレを完備。親子で入れる大便器ブースや、手洗器を大人用と子ども用とで高さを変えて設置する等、親子での利用に配慮している。

2F 療育用トイレ



幼児用マルチシンクは、1Fは高さ500mm、2Fは高さ600mmと、年代にあわせて使いやすい高さで設置している。

1F 中庭



施設の中央に設けられた中庭。砂遊びで汚れた手足を洗えるよう、手洗い場と足洗い場を完備。

建築概要

|         |                                              |
|---------|----------------------------------------------|
| 名 称     | 岡崎市こども発達センター                                 |
| 所 在 地   | 岡崎市欠町字清水田6番地4                                |
| 施 主     | 岡崎市                                          |
| 事 業 者   | 岡崎ウェルフェアサポート株式会社<br>(SPC:出資100パーセント酒部建設株式会社) |
| 設 計     | 株式会社西井都市建築設計事務所                              |
| 施 工     | 酒部建設株式会社(代表企業)                               |
| 竣 工 年 月 | 2017年3月                                      |

水まわりの特長

<建物の特徴>  
岡崎市は、岡崎額田地区広域市町村圏域事業として、広域の心身障がい者の福祉向上を図るために、昭和49年に総合福祉センターとして福祉の村を開設。福祉の村のあり方を検討する中で、こども発達センターを建設。発達に心配のある1-5歳児の「相談」「医療」「支援」を総合的に提供し、その子にあった健やかな発達をサポートする複合施設である。発達に心配のある子もそうでない子も、ともに生まれ育った地域で、自分らしく生き生きと笑顔で生活できるよう、発達支援の拠点機能を果たすことを理念に、保健・医療・福祉・教育機関のネットワークを構築し、切れ目ない発達支援体制を整備。施設の開所・運営にあたっては、効率的かつ効果的なサービスを提供するために、PFI事業方式を採用している。施設のお名前である「すくも」は、すくすく育つこどもを略したもので、みんな元気にすくすく育ってほしいという思いが込められている。

<トイレの特長>  
療育室は、1Fと2Fで利用する年齢が異なるため、それぞれの年齢に合わせた器具を設置している。多機能トイレは、様々な利用者に配慮し、オストメイト対応トイレバックを設置するほか、親子で同時に利用できるよう、幼児用大便器やベビーシート、ベビーチェアを併せて設置している。